

取組事例

- 資料4-1 「ひがし北海道価値創造パートナーシップ会議」の概要
- 資料4-2 「新たな北海道総合開発計画に関するシンポジウム」の概要
- 資料4-3 「北海道価値創造パートナーシップ」発足のキックオフイベントについて
- 資料4-4 食の総合拠点づくりシンポジウムについて

「ひがし北海道価値創造パートナーシップ会議」の概要

○ひがし北海道において、課題解決や活性化に向けて取り組んでいる方々からより実効性の高い計画推進方策についてのご意見をいただき、世界に目を向け、夢と希望の新時代幕開きの契機とすべく開催。

〔日時〕 平成28年4月27日(水)
14:30~17:00

〔場所〕 ホテル日航ノースランド帯広
2階「ノースランドホール」

〔主催〕 国土交通省北海道局・北海道開発局

〔参加人数〕 約200人



プログラム

第Ⅰ部 「地域づくり人材の発掘・育成」

第Ⅱ部 「世界のひがし北海道2050」

〔コメンテーター〕

太田 昭宏 (衆議院議員 前国土交通大臣)

〔コーディネーター〕

小磯 修二 (北海道大学公共政策大学院特任教授)

〔第Ⅰ部 パネリスト〕

井田 芙美子 (株)いただきますカンパニー 代表取締役

林 克彦 (有)ランラン・ファーム 代表取締役社長

道山 マミ 合同会社大地のりんご 代表社員

森崎 三記子 釧路モカ女性プロジェクト 代表

〔第Ⅱ部 パネリスト〕

蝦名 大也 釧路市長

田中 敬二 帯広市 副市長

田中 夕貴 北海道の地域とみちをつなぐネットワーク連携会議 代表

野村 文吾 十勝バス(株) 代表取締役社長

水谷 洋一 網走市長

(敬称略)

「新たな北海道総合開発計画に関するシンポジウム」の概要

○今後、北海道民を始めとする関係者が連携して新たな計画の実現に向けた取組を進められるよう、食・農業、観光等において持つべき様々な視点や課題を共有し、新計画実現の気運醸成を図ることを目的に開催。

〔日時〕 平成28年5月17日(火)
14:30～17:00

〔場所〕 札幌パークホテル 3階「パークホール」

〔主催〕 国土交通省、北海道経済連合会、北海道商
工会議所連合会、北海道経済同友会

〔参加人数〕 約350人



パネルディスカッションの様子

プログラム

- 開会挨拶 大内 全 国土審議会北海道開発分科会計画部会部会長、北海道経済連合会会長
- プレゼンテーション 「新たな北海道総合開発計画の概要」 岡部北海道局長 水島参事官
- 基調講演 「多様な主体がつくる魅力ある北海道」 奥野 信宏 国土審議会 会長(同北海道開発分科会会長) 学校法人梅村学園・中京大学理事・学術顧問
- パネルディスカッション 「新たな北海道総合開発計画の推進 ～世界水準の価値創造空間の形成をめざして～」
 - 【コーディネーター】 田村 亨 国土審議会北海道開発分科会計画部会 委員 北海道大学大学院工学研究院 教授
 - 【パネリスト】 石田 東生 国土審議会北海道開発分科会計画部会 委員 筑波大学社会工学域 教授
 - 大西 雅之 (公社)北海道観光振興機構 副会長 NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構 理事長
 - 林 美香子 国土審議会北海道開発分科会計画部会 委員 慶應義塾大学大学院SDM研究科 特任教授
 - 松嶋 一重 (株)日本政策投資銀行 北海道支店長
 - 吉田 弘志 鹿追町長 (敬称略)

「北海道価値創造パートナーシップ」発足のキックオフイベントについて

○北海道の価値創造力を高めるため、多様な人材の緩やかな「つながり」とコミュニケーションの「ひろがり」を促進し、関係者が緩やかに連携・情報共有を行う地域づくり人材の広域的・横断的な支援・協働を図るプラットフォーム「北海道価値創造パートナーシップ」を発足。そのキックオフイベントを平成29年1月に開催。

〔日時〕 平成29年1月21日(土) 10:15～18:00
 〔場所〕 札幌パークホテル
 〔主催〕 北海道価値創造パートナーシップ幹事会
 〔参加人数〕 約270人

《幹事会構成員》 (株)北洋銀行、北海道経済連合会、(一社)北海道商工会議所連合会、(公財)はまなす財団、(一財)北海道開発協会、北海道、札幌市、北海道総合通信局、北海道経済産業局、北海道運輸局 【事務局】北海道局、北海道開発局

プログラム

10:15～10:40 主催挨拶・活動宣言
 10:40～11:40 講演
 「インターナショナル ディスティネーション・ホッカイドウ～ニセコの事例を交えて」
 11:45～13:00 実践交流会
 (昼食休憩時間を活用し引き続き交流)
 13:45～18:00 ワールド・カフェ

参加者の意見・感想

- ・色々な取組をしている方が道内にいることを知ることができて良かった。これからも北海道が良くなる可能性を感じた。
- ・新たな繋がりができて、良かった。
- ・自分の持っていない視点や考えを発見することができた。
- ・参加者は北海道や地域のことを考える人ばかりであり、意識を高めるためにも、今後もこの会は重要だと思った。等

主催挨拶



田村 秀夫
北海道局長



山谷 吉宏
北海道副知事

活動宣言



佐藤 太紀氏
(株)エフエムもえる
代表取締役社長



クリーン スザンネ氏
(国立大学法人
北海道大学
現代日本学プログラム准教授)

講演



ロス・フィンドレー氏
(株)NAC
代表取締役

《概要》

海外から多くのスキー客を集めるニセコが、ディスティネーションからゲートウェイになったが、これまでの課題とそれをどう地域で解決してきたかを、楽しく講演。

また、住民が次の10年のビジョンを持つことの重要性やout of the box thinkingでアイデアを自分の町に提案することから始めようと呼びかけた。

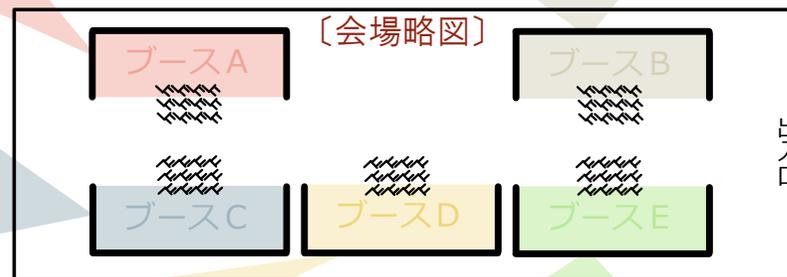
実践交流会

○地域づくりを実践している25名の方々から、日々の取組等について、パネルやプロジェクターを用いて発表いただき、参加者相互の交流を促進する場を創出。

●各ブースごとの出演団体(説明者)とテーマ

11:30 ~11:45	特定非営利活動法人常呂川自然学校 羽根石 晃彦氏 「リサーチからの学び・地域発見『ところ川学』」	11:30 ~11:45	小樽商科大学(本気プロ) 小山田 健氏 「商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト(通称:本気プロ)について」
11:45 ~12:00	特定非営利活動法人地域おこし協力隊(下川町) 長岡 哲郎氏 「資源を活かし、未来を創る」	11:45 ~12:00	寿都地域マリビジョン協議会 瀧山 修市氏 「体験交流 in 寿都町」
12:00 ~12:15	特定非営利活動法人森のこだま 上野 真司氏 「地域資源の活用と観光地域づくり」	12:00 ~12:15	函館湾岸価値創造プロジェクトチーム 布村 重樹氏 「埋もれた地域資源を活用した観光振興の取組」
12:15 ~12:30	東オホーツクシーニックバイウェイ 高谷 弘志氏 「東オホーツクシーニックバイウェイ活動で新たな価値創造」	12:15 ~12:30	みなとオアシス苫小牧運営協議会 大西 育子氏 「みなとオアシス苫小牧の取組について~“みなと”から地域を活性化~」
12:30 ~12:45	東川振興公社 平田 章洋氏 「東川町の地域活性化の取組について」	12:30 ~12:45	南後志地域パートナーシップ活動 本間 崇文氏 「農山漁村地域の資源を活かしたサイクル・ツーリズムの推進」

11:30 ~11:45	特定非営利活動法人えんべつ地域おこし協力隊 塩見 記正氏 「地元の産物を活用した地域づくりの一例」
11:45 ~12:00	北海道おといっぴつ芸術工芸高等学校 伊藤 良平氏 「地域とともに生きる高校」
12:00 ~12:15	萌える天北オロロンルート 西 大志氏 「暮らしぶりの映し ~北の光が続く道」
12:15 ~12:30	餅café&stayわが家 堂脇 聖美氏 「地域と繋がり、豊かに生きる」
12:30 ~12:45	みなとオアシス「わっかない」運営協議会 横澤 輝樹氏 「みなとオアシスわっかないの活動と今後の展開」



11:30 ~11:45	てしかがえこまち推進協議会 木名瀬 佐奈枝氏 「北海道弟子屈から観光の未来を拓く てしかがえこまち推進協議会の取組について」	11:30 ~11:45	アニマドレー 平島 美紀江氏 「農業 × 教育 = アニマドレー」
11:45 ~12:00	スローフード・フレンズ北海道 荒井 一洋氏 「スローフードフレンズ北海道の取組について」	11:45 ~12:00	一般社団法人北海道ゴルフ観光協会 遠藤 正氏 「世界に誇ろう北海道のスポーツツーリズム」
12:00 ~12:15	とかち・イノベーション・プログラム事務局 三品 幸広氏 「とかち・イノベーション・プログラムの挑戦」	12:00 ~12:15	納内地域集落対策協議会 安藤 一彦氏 「人口減に負けない「おさむない」のまちづくり」
12:15 ~12:30	特定非営利活動法人美しい村・鶴居村観光協会 服部 政人氏 「2600人の小さな村のロングステイとインバウンド」	12:15 ~12:30	特定非営利活動法人まち・川づくりサポートセンター 湯浅 芳和氏 「石狩川流域の未来に夢を★リバブラ★」
12:30 ~12:45	十勝川中流部市民協働会議 和田 哲也氏 「環境、教育、防災 官・民連携の川づくり」	12:30 ~12:45	WOMAN'S ACADEMY 吉成 恵里香氏 「ミスコン、ミセスコンから考える美の大地北海道の可能性」

「北海道価値創造パートナーシップ」発足のキックオフイベントについて

会場の様子



会場を5つのブースに分け、5つの時間帯に割り振り進行。参加者は関心のあるテーマのブースに移動し、発表に耳を傾けていた。

各ブースでの活動紹介の様子



ブースA
NPO法人常呂川自然学校
羽根石 晃彦氏



ブースB
みなとオアシス苫小牧運営協議会
大西 育子氏



ブース移動時間の交流



ブースC
萌える天北オロロルート 西 大志氏



ブースD
NPO法人美しい村・鶴井村観光協会
服部 政人氏



ブースE
WOMAN'S ACADEMY 吉成 恵里香氏



事例発表終了後の
昼食休憩時間を活用した交流

「北海道価値創造パートナーシップ」発足のキックオフイベントについて

ワールド・カフェ

13:45～18:00

会場：3階パールルーム

参加者 84名

地域づくり実践者、留学生、
大学生、高校生等

○「世界の北海道」をテーマに、参加者自身のこれからの地域づくりについて、ワールド・カフェによる対話を行い、新たな気づきや発見を共有。そのヒントとなるような地域づくりに関する好事例も紹介。

ワールド・カフェとは？

- ・「カフェ」で行うような、リラックスした雰囲気の中で、テーマに集中して話し合います。
- ・「議論」ではなく「対話」



●ファシリテーター
丸山 宏昌氏
(札幌大谷大学
社会学部 助教)

当日のワールド・カフェの流れ

～1テーブル 4～5名で構成～

○チェックイン（趣旨説明、自己紹介等）

○ワールド・カフェ
(テーマ)

「身近で感じる変化や、北海道で起きている変化は？」

「その変化と“世界の北海道”はどのようにつながっているのか？」

○事例紹介（ワールドカフェの合間に4つの好事例を紹介）

○チェックアウト（参加者が最も印象に残ったキーワードを記入。グループ内で共有し、意見交換）

【参加者が記入したキーワードの一例】

キーワード 外から見た視点 (発見・気づき)	キーワード その場所だからこそ 暮らしを創っていく	キーワード 出入りが出来る コミュニティ	キーワード 小さな発見 小さな違和感
キーワード 10年後の ビジョン	キーワード ローカル×グローバル	キーワード デザインする。	キーワード 若者の力が 日本の良さを わかせる(教える)
キーワード 人とのつながり ↓ 創造性 Community Creativ	キーワード 行動	キーワード 地元への力	キーワード 良い発見 付加価値をつける。

事例紹介



寛 裕介氏 (特定非営利活動法人
issue+design 代表)

事例テーマ

地域の魅力を
みんなで高める
“ソーシャル
デザイン”



河嶋 峻氏
(合同会社Staylink 代表)

事例テーマ

世界と地域を
つなぐゲストハ
ウスだからこそ
できるコミュニ
ティづくり



黒井 理恵氏
(株式会社DKdo 代表取締役)

事例テーマ

自分の住む街
を自ら楽しみ・
創るための5つ
の方法～名寄市
のコミュニティスペース
の事例から～

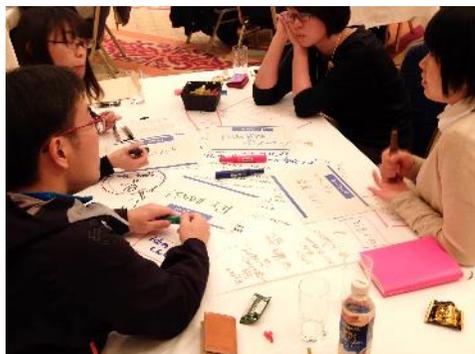
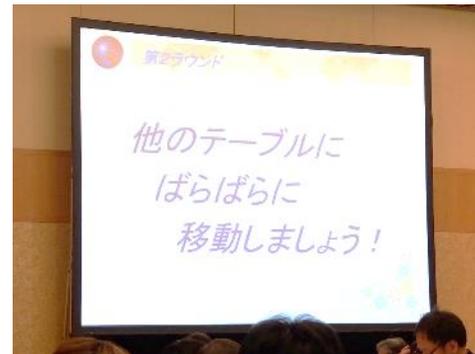


プーワナット
スーパーブクン氏
(合同会社
Staylink)

事例テーマ

タイ人から見た
北海道観光の
魅力と、
地域資源

会場の様子



食の総合拠点づくりシンポジウムについて

- 開催日時: 平成29年2月3日(金) 13:30~16:20
- 開催場所: 札幌第一合同庁舎講堂
- 主催: 国土交通省北海道開発局
- 後援: 北海道農業協同組合中央会、ホクレン農業協同組合連合会、北海道経済連合会、北海道、北海道農政事務所、北海道経済産業局、食クラスター連携協議体

～ プ ロ グ ラ ム ～

◇主催者挨拶	国土交通省北海道開発局次長 西山 明彦		
◇基調講演	「食の総合拠点づくりを目指して」	東京大学大学院農学生命科学研究科 教授	中嶋 康博 氏
◇講演Ⅰ	「地域の農産物加工による高付加価値化」	きたみらい農業協同組合 常務理事	高橋 優 氏
◇講演Ⅱ	「北海道の農産物を活用した立地の経過と現状」	フジッコ(株) 専務取締役経営管理本部長	奥平 武則 氏
◇パネルディスカッション			
テーマ	: 「北海道の農産物の強さと可能性」		
コーディネーター	: 東京大学大学院農学生命科学研究科 教授	中嶋 康博 氏	
パネリスト	: きたみらい農業協同組合 常務理事	高橋 優 氏	
	: フジッコ(株) 専務取締役経営管理本部長	奥平 武則 氏	
	: 生活協同組合コープさっぽろ 専務理事	中島 則裕 氏	
	: 北海道経済部 食関連産業室長	三井 真 氏	



参加者 約200名

○主催者挨拶

新しい北海道総合開発計画では、北海道外等からの食品企業の誘致促進を通じた、「食」の総合拠点づくりの推進が位置づけられており、本シンポジウムがその機運醸成になることを期待する、との開会挨拶が、西山開発局次長からありました。



挨拶: 西山局次長



○参加者

シンポジウムには約200名の参加がありました。自治体、農業団体、道内の企業を始め、金融機関や大学関係者等、幅広い層からご参加いただきました。道内における農業、食関連の産業への関心の高さがうかがわれました。

食の総合拠点づくりシンポジウムについて

○基調講演

基調講演では、国土審議会北海道開発分科会特別委員の東京大学大学院、中嶋康博教授から

「食の総合拠点づくりをめざして」と題してご講演をいただきました。

これまでの食の消費傾向と今後の展望を、統計等をもとに説明いただき、北海道が将来、食の強みをどのように活かすのか、地域ブランド戦略をどのように進めるのか、地産地消、親近感など、「オンリーワン」を目指すための戦略などについて講演いただきました。



東大大学院 中嶋教授

○講演 I

「地域の農産物加工による高付加価値化」と題して、北みらい農業協同組合 高橋常務理事からのお話をいただきました。

日本一の玉葱生産を誇るJAきたみらいでは、道内加工企業と連携した農産物加工、商品化の取組で売上げを伸ばしています。



JAきたみらい 高橋常務理事



フジッコ(株) 奥平専務取締役

○講演 II

「北海道の農産品を活用した立地の経過と現状」と題してフジッコ(株) 奥平専務取締役経営管理本部長にご講演をいただきました。

フジッコ(株)では、北海道の高品質な原料を使った豆製品、ヨーグルトなどで健康志向に応える商品づくりを進めています。

○パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、生活協同組合コープさっぽろの中島専務理事、道経済部三井食関連産業室長が加わり、北海道農業の強さと可能性と題して、トークセッションが行われました。消費者、生産者、行政、企業という様々な目線から、北海道の農、食がこれから発展するために必要な事を議論しました。

パネルディスカッション後は、会場からの質疑も相次ぎ、最後まで熱のあるシンポジウムとなりました。



パネルディスカッション



質疑応答



コープさっぽろ中島専務理事
道経済部三井食関連産業室長